

# 報告

## 「おかえり『はやぶさ君』～奇跡の生還」

### 講演とパネルディスカッション

作花一志（京都情報大学院大学）

去る6月13日の夜、全身傷だらけになりながらも小惑星 Itokawa への旅から生還し、壮絶な最期を遂げた小惑星探査機「はやぶさ」をテーマにした第8回 KCG 天文ワークショップ「おかえり『はやぶさ君』～奇跡の生還」が12月4日（土）午後開かれた。JST 支援、京都市教育委員会・天文教育普及研究会・NPO 法人花山星空ネットワーク・京都新聞社の後援によるものである。

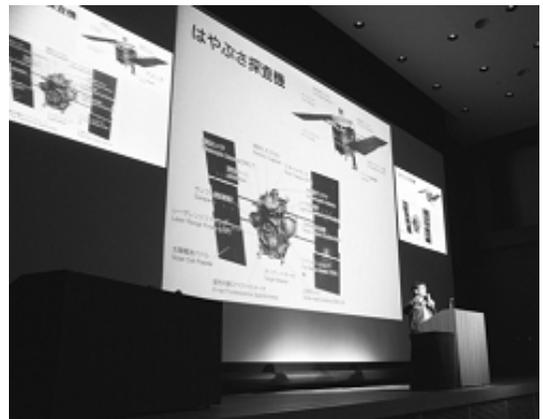


このようなイベントを開くことは6月の帰還の日からずっと夢だったが、あれこれ考えているうちに夏は過ぎていく。うつろいやすいこのごろ、賞味期間は半年だろう。だめもとで、はやぶさアストロノマーならこの人と言われる超多忙のJAXAの吉川真氏に講演依頼したところ、開催日はユニークソリューションとして決まった。講演会+パネルディスカッションという形式とし、選定したパネリ

ストの方々にも快諾してもらい、後援団体も決まった。ポスターやWebは学内の担当者に何度も作りなおしてもらった。

講演では「はやぶさ」が成し遂げた快挙とそれに至るまでの苦労話や「はやぶさ2」プロジェクトへの夢などが披露された。「はやぶさ」の活躍や役割についてはp.18の記事に詳しく述べられているのでここでは繰り返さない。この大事業は天文学・航空工学・通信工学・制御工学・ロケット工学・ロボット工学・等などのコラボレーションなのだと感じた。

はやぶさチームは元気を忘れた日本人に勇気と自信を与えてくれた。これは歴史に残る偉業なのだ。約250名の参加者もそう思ったに違いない。感動を新たにするとともに、今後の夢を共有したはずだ。



大人気を呼んだのは「はやぶさ」と Itokawa のミニチュア模型だった。休憩時間にはカメラを持った人ばかり。実は筆者も撮ったが、後で見たらぶれてしまっていた。

後半はパネルディスカッション。パネリストには吉川氏に加え、京都大学 花山天文台長の柴田一成氏、本学（神戸大学名誉教授）の向井正氏、本研究会近畿支部長の成田直氏、豊中天文協会の茶木恵子氏と筆者であり、司会は柴田氏にお任せした。研究者・教員・アマチュアの立場からそれぞれのコメントがあり、質疑応答に移った。



茶木氏（起立している）は関西特に阪急沿線で活躍されているアクティブな天文普及活動家で、はやぶさへ寄せる熱い語りに聴衆は聴き入った。成田氏には Twitter のつぶやきを見て、ぜひ、と参加をお願いしたもので、ご持参の「はやぶさグッズ」をいろいろ紹介された。



講師パネリストの皆さまおつかれさまでした。休日出勤（登校）してもらった教職員・学生の皆さま、ありがとうございました。

下の表のように、これまで講演と PC 実習をセットにした「天文ワークショップ」を実施している。JST 支援を受けたものも受けていないものも含め、今回で 8 回になった。対象は「どなたでも」。参加者数は 30～50 名（PC 自習を伴うときは定員 50 名）で今回が最大規模である。講師は筆者のコネで依頼しているが、見つからないときは、自分でやることになる。昨年はガリレオと日食が 2 大テーマだった。「天体画像実習」は本学の島尚徳が担当し何回も実施した。参加者は実習室で Makali を使って fits ファイルから星雲画像（jpg）を作成して、持って帰ってもらうもので毎回好評である。

さて、2011 年には第 10 回を迎えるが、何をしようか？ ただいま思案中である。

日付	内容
2007/11/17	[星雲の輝き] 天体画像処理実習
2009/3/7	[ガリレオスピリット] 天体画像処理実習
2009/7/7	七夕講演会
2009/10/4	[今年の皆既日食報告](向井) 惑星運動シミュレーション
2010/2/11	[皆既日食と太陽活動](柴田) 天体画像処理実習
2010/7/7	七夕講演会
2010/8/10	[宇宙の果ての銀河の姿](太田) 天体画像処理実習

[ ]内は講演タイトルで下段は PC 実習内容

作花一志